

第 38 回 技修会学術講演会

本年度の学術講演会は、技修会会員のお二人のプレゼンに加え、今年 3 月末に退職された三山先生にご講演をお願いしております。今後は、研修科をより広くアピールできるように技修会会員の皆様に積極的に登壇していただく予定です。ご期待ください。

(学術理事 伊藤竜馬 25 期)

多和利雄人(45 期)

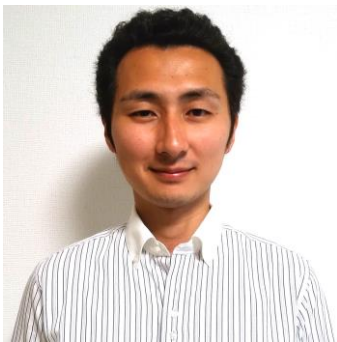
「臨床 3 年目技工士による患者から学ぶ技工」



審美的要求の高い患者に対し、ジルコニアを用いて製作を行った 1 症例からゴールを明確に出来ず再製作となった症例を報告する。また院内ラボの利点を活かし患者から学ぶという観点から、少ない経験の中でどのように考えながら臨床に取り組んでいるかも報告したい。

鎌形 優介(37期)

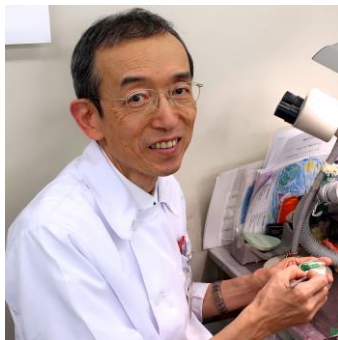
「ヒューマンエラーと向き合う」



日頃、歯科技工をしている中で注意深く作業をしてもヒューマンエラーが起こることがあります。これは若手、ベテランを問わず必ず起こることで、どれだけ注意してもエラーを無くすことは出来ません。このような人が関わると必ず起きてしまう問題に対し、どのように向き合っていけば良いかを人間の持つ特性を示しながら発表します。

三山善也(3期)

「デジタル化の時代にアナログ技術を再確認してみる」



近年、技工物の製作においてデジタル技術を応用した方法が脚光を浴びている。しかし従来の技術が不可欠な作業工程も多く、工夫を加えた術式も欠かせない。適合精度や審美の向上等に貢献している技術や器材をご覧頂き、それぞれが持つ意義や重要性を再確認してみたい。